



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)
トランプがグリーンランドに執着する理由
西半球めぐる米中対立

2026/01/12

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は、トランプ大統領がグリーンランドに触手を伸ばしている。しかも非常に執着しているという、その本心・理由は何かについてお話しします。



これはBBCニュースです。「トランプ氏、グリーンランド担当特使を任命 アメリカが『所有しなければならない』と」何を所有しなければならないか。グリーンランドだと。グリーンランドはデンマークの一部ですよ。それを「アメリカが所有しなければならない」と言うんですね。



「米、グリーンランド編入狙い一時金案 住民1人最大10万ドル=関係筋」ロイター電。10万ドルは1600万円ですよ。グリーンランドの総人口は5万7000人です。もう死にそうになっているおじいちゃんも、今生まれたばかりの赤ちゃんも、全員に1人1600万円づつ配りますよ。この前まで1万ドル言うてたんですけど10万ドル。

だけど、自分がそうされたらどうかな…多分反発すると思うんですよ。札束で横っ面はたかれるようにして、「この金で売れや！」みたいなね。「俺は売りもんなんか！舐めんなよ！」という気持ちになるんじゃないですか？

トランプ大統領がやっていることは、ムチャクチャのように見えます。しかし彼は、最初にとてども呑めそうにないことをドーンと言って、相手を震え上がらせ、縮み上がらせてからディールするのがこれまでのパターンじゃないですか。私は、これはすでに、ディールのプロセスの中に入っていると思います。

彼が「グリーンランドをアメリカのものにしたい」というのは本心なんですよ。なぜそのように考えるのか。なぜそんな提案を臆面もなくすることができたのか。



実は、アメリカはデンマークからこの領土を買ったんです。1917年に、現在のアメリカ領ヴァージン諸島を正式に購入しました。ヴァージン諸島の3つの島/セント・トーマス島、セント・ジョン島、セント・クロイ島を、第一次世界大戦の時に買ったんですよ。2500万ドルで。

「やすっ！」思うかもしれませんが、1917年第一次世界大戦の最中で、しかもドル紙幣じゃなくて金貨。ゴールド。なんで、そんなもん売んねん？

第一次世界大戦で、ドイツはカリブ海に拠点を持つようとしていました。パナマ運河が目と鼻の先だったからです。第一次世界大戦では、アメリカからの物資が、イギリスやフランスに大量につき込まれて行きましたね。それらを阻止するには、パナマ運河をギュッと握ってしまうのが、ロジスティック上、決定的な意味があったんです。「パナマ運河を防衛するためには、絶対にここをドイツに渡したらあかん！」という考えがアメリカにありました。

同時に、この3つの島はデンマークでしたが、デンマークはカリブ海まで遠すぎる。それに、デンマークはそこまで行くだけの防衛力を持っていなかった。さらに、カリブ海の島々を巡って、ドイツと一戦交えるという戦争リスクを冒したくなかった。そんなことしたら、デンマークは一溜まりもないことが分かっていたからです。

デンマークは売りたい。アメリカは買いたい。両者の意向が合致したので、1917年に売った買ったの不動産売買で、アメリカのものになったんです。「そういう歴史的事実があったじゃないか」ということですね。

グリーンランドはロシアの目と鼻の先で、ロシアのバックには中国がいる。「デンマークはグリーンランドを守れるんですか？アメリカのものにすることで、結局はデンマークも守られるんじゃないですか？グリーンランドがロシアや中国の手に落ちることになって行けば、デンマークの安全保障もまずいんじゃないですか？」ということが下敷きの中にあるんですが、ともかく「歴史上、売ったことがあるよね！買ったことあるし！」みたいな。そういうことなんですよ。

さて、なぜ今、グリーンランドの話が出てきているのか。トランプの第一次政権・第二次政権を見て分かることは、西半球における中国の影響を叩き出すための戦略を、一つひとつ積み上げていっているということです。



この赤い所がパナマ運河です。パナマって書いてあるでしょ。パナマは2017年まで、台湾と国交を結んでいました。世界のほとんどの国々が中国と国交を結んで、台湾とは結んでないじゃないですか。「パナマは貴重や」ということで、台湾はパナマに医療支援や奨学金を出したり、教育的なサービスを提供したり、一生懸命やってたんですけど、中国が乗り込んで来てひっくり返したんです。

パナマに対して「あんたどこパナマ運河やってるけど、太平洋側の出入り口と大西洋側の出入り口の港湾施設って老朽化してるよね。パナマの稼ぎ頭は運河の通行料だよ。その出入り口がいつまでも老朽化してたら、流通量伸びないよね。中国が莫大な投資をして、両方に中国資本の港湾設備を造るから、我々と手を結んでくれたら、莫大なお金があなた方の国に投資されますよ」

その額は台湾が絶対に追いつかない額だった。で、中国と国交を結びました。パナマは「台湾と中国の両方と国交を結びます」中国は「アウト！一つの中国、呑

んでもらいます！」それで、2017年に台湾を捨てた。
中国と国交を結んで、出入り口に莫大な投資をしてしまったんですね。

アメリカにしてみれば、パナマ運河という大動脈を中国資本に握られるというね。
「よくぞ俺のノド元に、そんなことしてくれたな」ということで、2024年にアメリカの連合資本のグループが、中国資本／香港の会社から両出入り口の港湾施設を買い取ったんです。買い取らなかつたら、何されるか分からないみたいなプレッシャーがあったんですね。まず、西半球のパナマを取り戻すことが最初です。

次にやったのが、この前のベネズエラ問題ですよ。ベネズエラ問題とは結局何か。ベネズエラの原油の85%は中国が買ってる。残りの15%はキューバがもらってるんです。キューバは金払ってないんですよ。キューバはベネズエラに秘密警察や安全保障関係の人たちを送って、バーター取引みたいなことをしているんですね。キューバがあんな社会主義で経済が回っているのは、タダ同然のベネズエラ原油が入って来るから。それで、キューバの息の根を止めるためにベネズエラを叩いた。ベネズエラを支えてるのも、キューバを支えているのも、背後にいるのは中国。つまりは、西半球から中国を追い出すためなんです。



もう一つがグリーンランド。
この西半球の地図を見ると、コロンビア・ベネズエラ・キューバ、そしてグリーンランドも西半球なんですね。

グリーンランドはどんなところなのか。BBCの画像を使って説明します。



グリーンランドは世界最大の島です。1953年にデンマーク王国の一部となりましたが、その何世紀も前からデンマークの植民地でした。（植民地から格上げされたんですね）

アメリカはすでにグリーンランドに軍事基地を持っていますが、トランプ次期大統領はさらに多くを求めています。（当選決定して就任する前の番組なので次期大統領）

スリランカのハンバントタ港では、中国に対する債務が膨大になって「もう返しきれへん！」中国は「債務減らしたるわ。その代わり 99 年間リース物件で貸せや」お金返されへんから、ハイとしか言いようがない。

これは主権侵害なんですよ。それと同じような手法で、北極海の人口が少なく経済基盤の弱いようなところに中国資本が入って行ったら、同じような手法で乗っ取っていくんじゃないの？と心配しているんです。

「グリーンランドはある時からオランダの一部になったが、それまでは植民地だった」と書いてあるんですね。植民地時代は、イヌイットと言われる人たちが住んでました。昔はエスキモー、今はイヌイットと言われます。

先住民族の彼らが住んでいるグリーンランドはデンマークの植民地になり、1953年に形式上は植民地ではなくなりましたが、政治も教育も行政もデンマークが指導しました。だから、公教育での言葉はデンマーク語です。

でも、「我々にはグリーンランド語、イヌイットの現地語のカラーリット語があるやんか。我々には独自の文化、独自の考え方があるのに、植民地に格上げされた後も格下に見られて…」という、ものすごい反発心があるんですよ。

グリーンランドは土地は広大ですが、5万7000人しか住んでません。

その9割がイヌイットの人たちです。デンマークに対して内心反発があるので、ほとんどの人たちはデンマークから独立したいんです。

ひとりで独立と言っても、急進独立派もいるし、穏健独立派も、少数派ながら「このままでいいやん」という人たちもいる。実際問題、独立はできませんでした。

先立つものがないから。5万7000人ですからね。

だから、嫌なことだけど、ほとんどがデンマークからの補助金で生きているんです。補助金なしにはやっていけない。グリーンランドの主産業は水産業ですが、それだけではとてもじゃないけど回っていかないので、莫大なお金をデンマークからもらいながら、しかもデンマークから独立したいと思っている。

本当に独立を実現したいなら、金払いの良いところと貿易して、自分たちが潤っていく必要がありますが、「金払いのいい商売相手になりますよ！」と名乗ってるのが中国なんですよ。

2023年、グリーンランドは独立への準備として憲法草案を作りました。

草案の段階でまだ公表されているだけで確定ではないんですが、目を離せません。

何が問題かというと、グリーンランドには空港が3つありますが、大型機が発着できないんです。滑走路が短すぎて。長い滑走路を造れたら、当然大型旅客機の離発着ができるので、観光資源を提供して、多くのインバウンドでお金が落ちるじゃないですか。だけどデンマークは「そんな金ない！」

そしたら中国が「ウチが出すで。ウチに頼んでよ。ウチが何から何まで全部面倒見るから。ワンセットで売るから」

独立派が「やるわ！」と中国と契約してやろうとした時に、「ちょっと待て。空港

って、インフラの中でも安全保障に直結するところやぞ！」とアメリカが横やり入れて待ったを掛けたので、これはおじゃんになったんです。

独立派の人たちが自分たちだけで、デンマークに依存しない経済的なシステムで中国と話し持って行こうとするたびに、デンマークやアメリカの横やりで潰される。「おまえ、なに偉そうに言うてんねん。民族自決の原則あるんじゃないの？自分の命運は自分で決めていいんじゃないの？どこと組もうが、俺たちの自由じゃないのか！」

デンマークは今までの歴史的経緯があるので、グリーンランドの人たちからどうしても支持されにくいんですね。中国はそこを見ている。なので、トランプ大統領は単に「グリーンランドをよこせ！」と金でひっぱたく…ではなく、もう少し補足すると、「デンマークが絆を持ってグリーンランドを繋ぎ留めることができず、中国が野放図にグリーンランドに進出して来るの見逃して行くくらいなら、デンマークの領有をアメリカに寄こしてくれ。アメリカが中国の影響力を全部排除することができたら、回り回ってデンマークにもプラスになるんじゃないのか」と言ってるんです。

グリーンランドは常に独立の力学が働いてるんですよ。独立したらどうなるのか。今グリーンランドに米軍基地がありますが、独立したら、基地の駐留条件にしても、防衛協定をどこと結ぶかについても、デンマークと違うことになってしまうんです。グリーンランドにはすごい自治権がありますが、外交と安全保障に関してはデンマークが持ってるんです。でも、デンマークではない国になったら、つまりアイスランドみたいな国になったら、アメリカは影響力を失う可能性があるんですね。それだけは何としても避けたい。なぜなら、そこは西半球だからです。

ということでアメリカは、自分の喉元のところに中国が進出しようとしていて、それに対してなす術もないデンマークに、「あんたのもんやから任しとくわ」と放ってたら、自分たちの生存に致命的な影響が起こるかもしれない。それを「指をくわえて黙って見ているつもりはありませんから」と言ってるんですね。

パナマの港湾施設を取り戻したこと、ベネズエラのマドゥロ大統領を拘束したこと、グリーンランドを何とかアメリカのものにしたいと言っていること、この3つに共有しているのは、西半球でありながら、手を突っ込んで来ている中国を叩き出していくことなんですよ。

西半球で起こっていることですが、日本のすぐ隣にある核大国の中国とアメリカの、代理戦争の様相を呈しているんですね。だから2026年は本当に激動の時代です。

次回はモンロー主義…これは聖書と関係あるんですが、「西半球はアメリカの裏庭である」というこの考えがどうして出て来たのかについてご紹介しますので、また遊びに来てください。チャンネル登録もお願いします。また、ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！